



アジアにおける共生を歴史的に考える

教育学部 教授 富澤 芳亜

私の担当する「東洋史概説」ⅠとⅡ、「アジア共生論」では、学生とともにアジアにおける共生を考えています。近代のアジアにおいて人々は、自由と富を求めて奮闘しました。アジアの歴史とSDGsの「産業と技術革新の基盤を作ろう」とは、縁遠いように思えるかもしれません。しかし産業革命はイギリスだけに特有なThe Industrial Revolutionではなく、その後、東アジアの各国も経験し、今日の「ゆたかな社会」を築きました。また「人や国の不平等をなくそう」に関連した点であれば、近代アジアにおける人々の自由への奮闘と主権国家の成立を考えていきます。歴史とは他者の記憶を理解する作業であり、その意味で「平和と公正をすべての人に」と、グローバル・パートナーシップを活性化する「パートナーシップで目標を達成しよう」の前提となるものであり、こうした視点を各授業に入れることにより歴史的にSDGsを考えています。



【洋務運動の場合】

